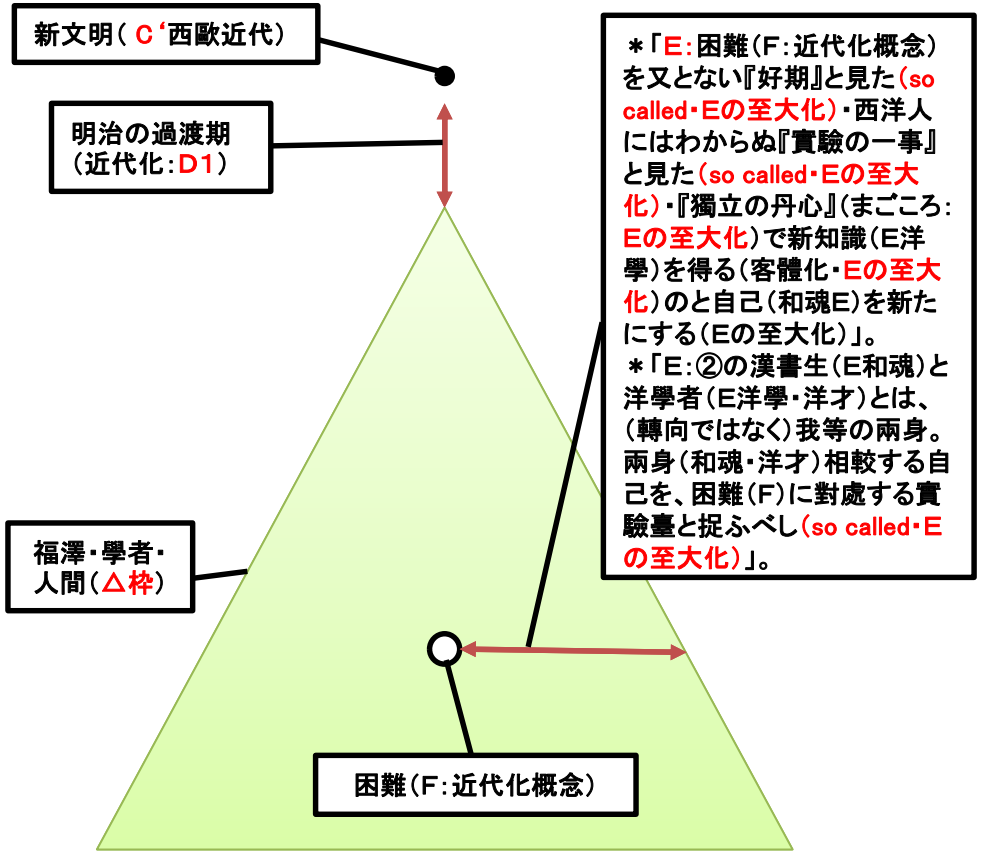
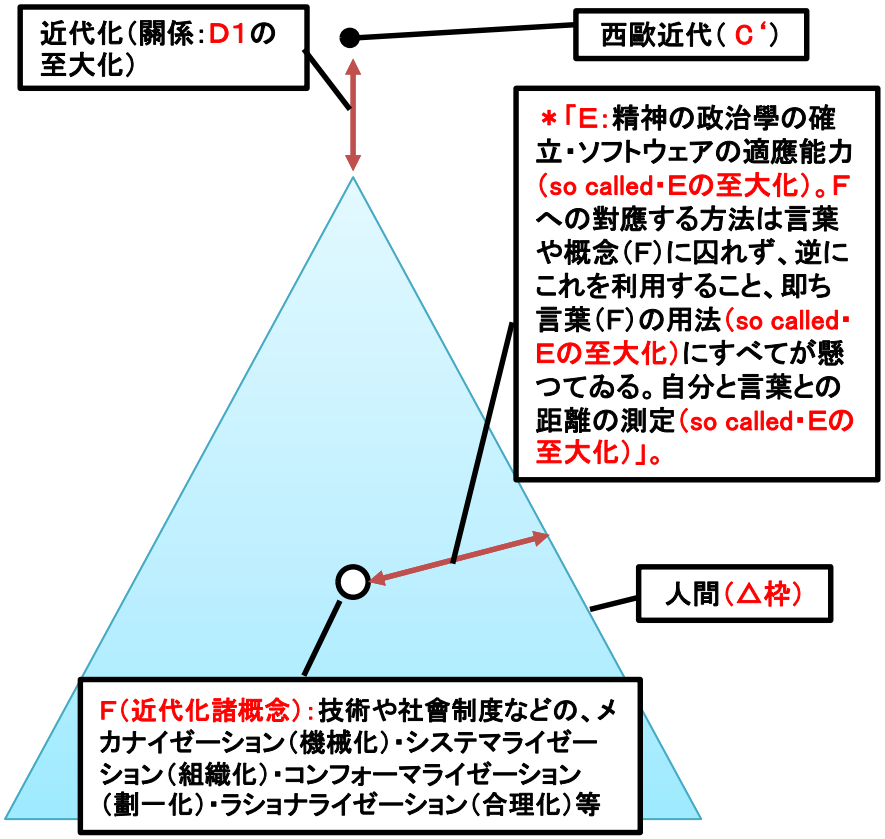
# 福澤諭吉・恒存兩者の「ソフトウェア」(so called・Eの至大化)の相違

〔「關係論」で讀む、福澤諭吉の近代化プロセス〕

＊「新文明( C‘西歐近代)⇒明治の過渡期(近代化:D1)⇒困難(F:近代化概念)⇒E:困難(F:近代化概念)を又とない『好期』と見た(so called・Eの至大化)・西洋人にはわからぬ『實驗の一事』と見た(so called・Eの至大化)・『獨立の丹心』(まごころ:Eの至大化)で新知識(洋學E)を得る(客體化・Eの至大化)のと自己(和魂E)を新たにする(Eの至大化)⇒福澤・學者・人間(△枠)」。

＊「新文明( C‘西歐近代)⇒明治の過渡期(近代化:D1)⇒F:①困難②漢洋轉向(F近代化概念)⇒E:②の漢書生(E和魂)と洋學者(E洋學・洋才)とは、(轉向ではなく)我等の兩身。兩身(和魂・洋才)相較する自己を、困難(F)に對處する實驗臺と捉ふべし(so called・Eの至大化)⇒福澤・學者・人間(△枠)」。

〔恒存著『醒めて踊れ』に於ける「關係論」と近代化プロセス〕

＊「西歐近代( C‘)⇒近代化(關係:D1の至大化)⇒F(近代化諸概念):技術や社會制度などの、メカナイゼーション(機械化)・システマライゼーション(組織化)・コンフォーマライゼーション(劃一化)・ラショナライゼーション(合理化)等⇒E:精神の政治學の確立・ソフトウェアの適應能力(so called・Eの至大化)。Fへの對應する方法は言葉や概念(F)に囚れず、逆にこれを利用すること、即ち言葉(F)の用法(so called・Eの至大化)にすべてが懸つてゐる。自分と言葉との距離の測定(so called・Eの至大化)⇒人間(△枠)」。